



コミュニティ・スクールの先行事例に学ぶ

◆ 令和2年度に国が実施した「学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究」では、既に導入した自治体や学校から、さまざまな報告が寄せられています。中でも特に注目したいのは、次の内容です。



○ コミュニティ・スクールの導入により、校長が感じている成果には、主に次のことがあります。

- ▶ 特色ある学校づくりが進んだ。
- ▶ 学校と地域が情報を共有することができるようになった。
- ▶ 地域と連携した取組みが組織的に行えるようになった。

○ その主な要因としては、学校運営協議会において子どもがどのような課題を抱えているのか、地域と学校が協働でどのような子どもを育てていくのか、などといったことが十分協議されたことや、学校運営協議会の委員により学校関係者評価が効果的に行えたことなどが挙げられています。

○ 一方、課題としては、学校運営協議会で本来協議すべき学校運営に関する課題が提示されない場合、学校からの定型的な報告が中心となり、学校運営協議会の本来の効果が発揮されないといった報告があります。

◆ よって、学校運営協議会では、校長が学校運営上の課題を具体的に提示した上で、課題解決型の協議の活性化を図ることが重要であると考えます。

習慣

哲学者／アリストテレス

我々が繰り返し行うものが、我々の本質である。
ゆえに、優秀さとは行為ではなく、習慣である。

出典：「賢人たちに学ぶ 自分を超越する言葉」本田季伸著（かんき出版）

※ 「望ましい習慣」を義務教育段階で形成できるよう、家庭および学校間で連携していきましょう。